

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200308		
法人名	有限会社 クオーレ		
事業所名	グループホーム クオーレ基山		
所在地	佐賀県三養基郡基山町大字宮浦字塚原885番6		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年11月26日	外部評価確定日	平成28年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・ご家族との交流を図る為に家族会を行い、アンケート調査や利用者様の状況などを報告している。・季節感を味わっていただく為にホーム内の掲示物を変えたりバスハイクを行っている。・利用者様の誕生日をその日に行い入居者のご家族の方、ボランティア、スタッフでお祝いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>鳥栖筑紫野道路の宮浦インターより車で1分、JR基山駅より車で3分・徒歩15分に位置し、交通の便が良く清閑なホームである。外部評価を毎年受けることを通して、振り返りの中で職員の意識向上を図り、年間の目標設定、自己評価等を積極的に実施している。職員は、理念の「おひとりおひとりを大切に、健康で楽しく一歩でも家庭の生活に近づけるよう努めます」を実践し、家族の一員として接している。ホーム内は清潔で床はピカピカに磨かれ、リビングには鉢物の花と手作りの小物で飾ったり、壁には利用者の季節の作品を展示し、玄関横にはテーブルと椅子を置き、外の風景を見て楽しく過ごしていただけるよう支援をしている。地域の児童が立ち寄り、高校の吹奏楽部が訪問し利用者とは交流する等、地域とつながりながら暮らし続けることができるホームである。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	理念	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミニカンファレンス時に理念を読み上げて、少しでも理念に近づけるように日々取り組んでいる。	日々の申し送り時にホームの理念「おひとりおひとりを大切に健康で楽しく一歩でも家庭の生活に近づけるよう努めます」を唱和し、理念の実践に日々取り組んで支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣から野菜などを頂いたり、ボランティアの方に来てもらっている。また110番の看板を掲げ、時々子供たちがトイレを借りに来たり、お茶を飲んだりと利用してもらっている。	地域の方から季節の野菜を戴いたり、小学校の通学路に面しているため、学童がトイレを借りに寄ったり、お茶を飲みに来たりと気軽に立ち寄ることができる関係づくりがなされている。また、地元の高校の吹奏楽部の訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて「認知症」について理解してもらっている。3ヶ月に一度ホーム便り(ほのぼの通信)を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、活動情報や利用者様の状態を報告後、参加者から意見や要望を出してもらい、速やかに検討会議を行いつつ今後のサービスに活かしている。	2ヶ月に1回会議を開催し、活動状況や利用者の状態、サービスの実情等を報告している。委員からは意見や要望等を出してもらい、そこでの意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、介護保険課の方に3ヶ月に一度ホーム便りを配布している。又、2ヶ月に一度安心相談員に立ち寄って頂き、アドバイスを受けている。	町福祉課の職員と地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席されるので、ホームの実情やサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築いている。また、介護保険組合からの安心相談員を受け入れ、利用者全員に話しかけてもらうことにより、気づきのアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い、職員全員が拘束について知ってもらう様にしている。行う場合は、必ず家族から同意書をもらい記録に残し、外す検討も行っている。	身体拘束の弊害については職員は十分に理解しており、施設内研修や外部研修・マニュアル等で常に目配りしている。鍵掛けもしておらず、ベッド下のセンサーマットを使用する場合も家族の同意を得て行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修を行い、職員全員が理解し、起きないように努めている。	2016/1/14	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	理念	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての内部研修を行っている。必要な人に対しては、それを活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書の提示と料金等を詳しく説明し、同意を得る様にしている。解約については家族に十分な説明、話し合いを行い、理解と納得の上で解約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情を受けるホーム側の窓口が分かるように明示している。意見箱を設置し、出された意見や苦情は、職員会議で話し合い、運営に反映させている。	運営推進会議にも家族代表の出席をお願いしている。また、年1回家族会を開催してアンケート等を収集しており、出された意見や苦情は真摯に受け止め、職員会議で協議して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において意見や提案を聞く様にしており、出された意見については全員で話し合いをして仕事に反映させている。	毎月テーマを設定し、全職員の出席の下に職員会議を実施しており、そこで出された意見や希望、提案等は全員で協議し、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議で仕事上の問題点を話し合い、働きやすい方向に改善出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議で一つテーマを決め、その議題についての内部研修を行い、スタッフ一人ひとりの介護技術の向上や自己研鑽に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、他の事業所の方の意見などを取り入れ、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	理念	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の困っている事や要望があれば話を聞き、その内容をプランに取り組みようとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望などを聞き、その内容をプランに取り組みようとしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族と話し、今必要な支援について話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はして頂き出来ない事は職員と一緒にやって行っている。困難な時は介助をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に1回家族会を行い、ご家族、利用者様、職員の交流の場を設けている。また、面会時にも利用者様の日頃の様子を伝える様になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会をしてもらっている。その際は居室に案内し、お茶を飲みながらゆとりとお話をしてもらっている。	利用者本人が町内や隣接の市からの入居なので、家族や兄弟姉妹、知人等の訪問が多い。その際は居室でお茶を飲みながら団欒してもらい、楽しい一時を過ごしていただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がうまくいくように職員が間に入り、調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	理念	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところないが今後あればホームに遊びに来てもらったり、行事に参加してもらう様にする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で本人がやりたい事、したい事の把握に努めている。困難な場合はご家族と相談し、ご希望に近づけられるように努めている。	日々の関わりや支援の中で本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合には家族と相談して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族から聞き取りを行い、それを参考にこれまでの経験やできる事を見極め、対応している。また、ご家族や知人の面会時には、折に触れて話を聞いたりして少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの状態を把握し、それに合わせた支援を行っている。また、生活記録を作成し日々の状態や様子を確認できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、本人より聞き取りを行い、ケアプランを作成している。作成時はケア会議で話し合いを行い、ケアプランを作成している。	毎月全職員でケア会議を実施しており、ケアプラン作成時は家族や本人の希望を取り入れ、看護師や介護士数人でケア会議を実施して、現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、その日の勤務者が一人一人の状態や変化を記入している。月末にまとめを行っており、それによって本人にあった介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に合わせて必要なサービスについて考えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	理念	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週月曜傾聴ボランティアの方に来ていただき、利用者様の悩みや相談について聞いて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医を利用できるようにしている。全利用者様、訪問診療も支援している。	受診は、本人や家族の希望する医療機関としている。協力医療機関の月2回の往診と訪問看護支援が実施されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常の観察を密にし、異常時は訪問看護師に情報を伝え、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は頻繁に面会を行い、ご家族、主治医、看護師と話し合い、少しでも早く退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りケアの方針を入居時に説明、同意書を受けている。かかりつけ医との連携を取って行っている。	重度化した時や終末期の在り方については入居時に説明をして同意を得ている。現在までに2名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや事故発生時対応マニュアルを作成し、それに沿って定期的に訓練を行い、迅速に適切な対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各マニュアルを作成しており、年2回防災(火災)訓練を行っている。緊急時は地域の人々に協力してもらえるような体制を整えている。	消防署の指導の下に昼間と夜間を想定した防火訓練を実施している。非常時通報の遠隔監視制御システムを活用し、何かあれば事業所から3分程の消防署と全職員に通報が行く体制となっている。緊急時には更に事業所の隣軒にも通報が行くようにしている等地域の方々との協力体制を整えている。また、災害時に備え、食料や水の備蓄もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	理念	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせ、話をしたり、利用者様に合わせて対応するように心掛けている。	接遇マニュアルによる振り返りをミニカンファレンスで実施している。日々の関わりの中で職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように心がけながら言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも選択できるような声掛けを心掛けている。利用者様に決定権を持たせるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、希望や状態に合わせたケアが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望などを尊重している。家族会や外出する時はお化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなどは、利用者様と一緒にしたり、嗜好調査を行い、一人ひとりの食事の好みを聞くなどしてメニューに取り入れ、食事が楽しみになるように心掛けている。	利用者は当日のメニューを書いたり、手拭きをたたんだり、準備を手伝ったりとできることをして和気あいあいとした雰囲気の中で食事を楽しんでいる。嗜好調査や献立会議を年2回実施して一人ひとりの好みの食事が摂れるように配慮し、職員全員が同じ物を一緒に食べるにより食事が楽しみな時間となるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスを管理し、一人一人の状態に合わせた支援をしている。水分摂取は、最低でも1日5回行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行い、出来ない人は職員が介助している。義歯については、洗浄剤で消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	理念	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けて支援を行っている。	一人ひとりの排泄チェックを行い、排泄パターンを把握して自立に向けた支援を行っている。日中はトイレ誘導を行い、夜間はポータブル使用で自立へ向けた改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないように食材や料理の工夫及び水分補給や運動を行い、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりゆっくりと入浴して頂いている。今の所希望者はいないがいつでも入浴出来る様に対応している。	入浴は、週4回としているが、いつでも出来るようにしている。入浴剤の使用等をしてゆっくり楽しく入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムに合わせた生活をして頂いている。リビングでTVを見たり、居室で休憩をされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をケースごと管理し、服薬の時は職員が必ず2人で確認を行っている。症状の変化がある場合は訪問看護師より主治医に報告し、指示を受ける様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態に合わせてテーブル拭きや洗濯物たたみ(干し)、ちり紙折りをお手伝いして頂いている。また、嗜好調査を行い、出来るだけ利用者様の好みを把握している。その他気分転換を図る為、バスハイクなどに参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば外出が出来るように支援している。天気のいい日は外でレクリエーションや散歩を行っている。	職員の食材調達に同行したり、天気の良い日には戸外で体操をしたり、施設の周囲の散歩に出かけている。月1回は近隣の花見(桜・バラ園・コスモス・紅葉等)に行くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	理念	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある利用者様のみ自分で小銭程度は管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をかけてなどの要求には対応している。年賀状や暑中お見舞い等をご家族や知人に出される際は傍に付き添い、書き方などを教えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなど、季節が感じられるようにお花やその月ごとの行事の絵などを利用者様と一緒に作り、貼るようにしている。	施設外回りにウッドデッキがあり花が一杯で、玄関やリビングにも季節の花や小物で飾られてあり、壁には利用者と職員が一緒に作ったその月の行事の絵を貼って季節感が味わえるように工夫している。また、マッサージ機も備え、利用者が気持ちよく過ごすことができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファもあり、気の合う人同士でお話をされている。また、歌謡曲や演歌の番組(録画)を鑑賞され、昔話に花を咲かせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使用されていた家具などを持って来られ、居心地良く生活して頂けるように工夫している。	居室には利用者の使い慣れたタンスや小物入れ・ソファ・椅子・人形・テレビ・仏壇等が整然と置かれ、壁には写真やレターが飾られている。趣味のお話の教本を置いたり、ベット回りもきちんと整頓されており、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況に合わせ、生活が出来るように支援している。安全に生活出来る様にトイレや廊下などの必要な所には手摺りを設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)			
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
		2016/1/14	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない